

## 東日本大震災被災地への花・みどりの提供について（趣旨）

### 1. 背景

- ・ 23年3月11日に発生した東日本大震災は、M9.0という地震の規模、さらに津波被害、原子力発電の不安定要素の長期化など、極めて甚大な被害をもたらしている。
- ・ 今後、被災者に対するあらゆる支援が講じられるものと考えられるところ、最近の災害において、被災者に用意される仮設住宅は、限られたスペース（広場、公園、学校、公共の遊休地等を利用）に詰め込めるだけのプレハブ住宅を建てるだけの構造となる。
- ・ 日本の仮設住宅は、屋根高を低く取る等必要最小限の構造となっているため、生活する上では様々な不便が指摘されているところ（気候上、夏季の屋根熱が直接居室に入る、寒冷地では冬季、湿気が籠もる等）
- ・ 一方、1999年に台湾で発生した震災では、日本の仮設住宅と比べて屋根高を高く取り、高温多湿の気候に対応した住宅や、広場に小公園、住宅の周りに植栽帯や植物を多く並べた空間を設けるなど、日本の仮設住宅地とは大いに違う光景が見られた。（参考資料）
- ・ 以上から、日本の仮設住宅においては、敷地内および周辺環境整備が重要となるところ、限られたスペースのため、憩いの広場等のスペースはほとんど設けられず、また砂利敷きの上にアスファルト舗装がなされる場合がほとんどである。従って、多くの仮設住宅地が、住民にとって息のつけない、無機質かつ狭小な空間となることが大いに懸念される。

### 2. 花と緑の提供

- ・ 江戸期の江戸は世界有数の高密度な大都会であったにもかかわらず、庶民の間では庭先など生活空間に置いて鉢物の植物などを育て、生活に潤いを与えていた。
- ・ 今後建設されるであろう仮設住宅においても、身の回りに植物があり、世話することで、被災された方の心の安らぎや癒しに、大いに役立つものと考えられる。
- ・ 以上から、被災された方が生活する仮設住宅地の中にコンテナの花壇を提供することにより生活環境の改善と共に、花・みどりに親しんでいただくことを通じた精神的側面からの支援を目指すものである。

### 3. 提供の概要

- 呼びかけ先 : 被災地域の県を通じて、市町村に募集  
提供内容 : プランター、土（肥料含む）、初回用の花苗（運搬含む）  
管理 : 申請する公共団体を通じて、居住者に依頼する

(参考1) 台湾での仮設住宅の状況



台湾霧峰郷 新希望村仮設住宅 1999年12月 (撮影：緑化機構防災研調査団)



台湾 中興新村 仮設住宅地内の小公園 1999年12月 (撮影：緑化機構防災研調査団)



長岡 中越地震における仮設住宅  
2005年 (撮影：緑化機構手代木)